

シンポジウム 3 (看護師企画) SY3-1 看護部会立ち上げに向けて

松田健太郎

医療法人財団樹徳会 上ヶ原病院 高気圧酸素治療室

【はじめに】

高気圧酸素治療（以下 HBO）の対象疾患は多岐にわたり様々な診療科が担当し、その病期も様々である。また、患者は性別や年齢はもとより、様々なライフステージに立つ人々が対象となる。そのため、医師・臨床工学技士にとどまらず、多くの職種が連携し患者と向かい合うことが必要とされる。現在、医療全般において他職種連携が進んでいるが、HBO における看護師やその他の職種との連携には施設間で大きな差が見られる。更に、本学会においても、会員の多くは医師や臨床工学技士であり、看護師の参加は少ない。

【背景と現状】

HBO において看護職との連携が進んでいない理由として、看護師における HBO の認知度の低さがあげられる。実際に看護が必要とされる場面が数多く存在しているが、その事実を知る看護師が少ないことがその要因の一つだと考える。また、看護に特化した資格制度も構築されていない点も要因の一つだと考える。そのため、学会活動を含め看護師が HBO に関わろうとした際に、看護部の理解が得られずに活動を断念するケースもある。

今回、シンポジウムを開催するにあたり学会事務局および認定・試験委員会に公開を依頼したデータをみると、2025 年 4 月現在の個人会員は約 1,200 名であり、そのうち医師以外の会員は約 640 名である。640 名のうち、専門技師資格を保持（資格更新保留者も含む）している会員は約

500 名である。看護師の資格保持者は全体の約 1 割にあたる 58 名であった。そして、その平均年齢は臨床工学技士が 41.4 歳に対して看護師は 49.7 歳であった。

【考察】

本学会において看護師会員の殆どは専門技師資格の保有者であることが予測され、更にその平均年齢が臨床工学技士と比べ高齢化が進んでいることから、看護師で新たに資格取得を目指すものは少なく、本学会に入会しようとする者が少ないと言える。

今後、若者人口が更に減少する中、看護師の活躍する場面は拡大している。しかし、将来、看護師不足は更に加速することが予測される。学会として看護師に対し、今以上に HBO を周知させ、HBO 看護の必要性をアピールすることや、看護師に特化した資格制度の構築することで、看護師の興味を引く必要がある。また、今後の看護師不足を考えると看護職者への人材確保を進めることは、急務を要する問題だと言える。

看護師は、人生を生きる一人の個人として総合的にみるにより、疾病をみる『医療』の視点だけではなく、生きていく営みそのものである『生活』をみる視点も持つ、人を見ることのスペシャリストである。その看護師を巻き込み、病をみることのスペシャリストである医師、機器をみることのスペシャリストである臨床工学技士が連携を図る事により、HBO そのものの質が向上し、これまで以上に、患者に寄り添った HBO を提供できると考える。

【結語】

本シンポジウムをきっかけに、本学会において看護師の活動が活発となり、看護部会の立ち上げに向けての声が更に高まるだろう。その上で、資格制度の構築や HBO 看護の標準化が進むことを期待する。

表 1

【猶予申請を含む（現在有効＋保留）】

・専門技師資格保持者（2025/4 現在）

| | |
|--------|------|
| 総数 | 504名 |
| 臨床工学技士 | 446名 |
| 看護師 | 58名 |

学会会員（個人）医師：556名 その他の者：644名（2025/4現在）

・専門技師平均年齢

| | |
|--------|-------|
| 専門技師全体 | 42.4歳 |
| 臨床工学技士 | 41.4歳 |
| 看護師 | 49.7歳 |

データ提供：JUHMS 認定・試験委員会および事務局